**新アニポケ#1~#6プロット**

**このプロットについて**

・こちらのプロットは、リコ、レイ、フリードの行動線をたどるための参考資料として

　まとめたものです。

・それぞれのキャラクター性はプロットに反映されていない状態ですので、キャラクター　設定資料に記載の情報を正としてお読みください。

・また各キャラクターの手持ちが決まっていないため、バトル等の描写は意識的に除かれ　ている状態のものとなります。

・コダイガメは#1、#6で一時的にノーマルフォルムに戻る描写が含まれていますが、

　こちらはあくまで仮のものになります。どのタイミングでノーマルフォルムを

　初出させるか？初出がアニメなのか？など、TPC開発プロデュース部・宣伝企画部と連携を取った上で

　改めてご相談させていただく予定です。

・エクスプローラーズについては、テキスト上でシリアスに感じられる表現が含まれて

　いますが、脚本段階ではよりコミカルにしながら、塩梅感を調整していく予定です。

・プロットの内容については、直近でセリフを追加しつつキャラクター性を

　整理したバージョンを制作予定ですので、そちらをベースに7月中に

　ご確認をいただく想定で進行しております。

**#1～#6の狙いについて**

・リコの物語の立ち上がりとしては、フリード・不思議なペンダント・レイとの出会いに　よって、カメをめぐる旅立ちに出ていく形で検討しています。

**#1～#3　ペンダントについて開示し、巻き込まれながらも自らの意思でフリードと  
　　　　　旅立ちを決意する**※#1~#2は1時間スペシャル予定

**#4～#6　レイとの出会い18匹の特別なポケモン達の存在を描き、物語の縦軸を提示する**

これまでのような1話完結ではなく、続き物のストーリーを描くにあたり、

・ポケモンや仲間との出会いを通じて、主人公の精神的な成長をしっかりと見せていく

・また、各話のラストではドキドキする展開を入れることで、次のエピソードが見たく  
　なるような引き（クリフハンガー）にしていく　ことを目指しています。

**#7以降の補足**

・7話以降は、「各地方を巡り、ジムリーダーと戦うなどして力をつけながら、

　18匹の特別なポケモンと向き合っていく」縦軸がスタートされていく予定です。

・リコの旅立ちを描く関係上、＃1〜6では高い頻度でエクスプローラーズが襲ってきていましたが、7話以降は登場頻度はグッと下がり、日常回なども展開される予定です

・最初の1クール展開イメージは、次回脚本をご覧いただくタイミングなどでご共有予定です。

**#1**

〇アヴァン

ポケモンの住む世界をめぐる目線での風景。その画に続くモノローグ。

〇Ａパート

ポケモンリーグの置かれたセキエイ高原付近のとある街。小さな旅行鞄と制服姿の少女、リコ。学寮に到着する。用意された自分の部屋に案内されると、先客の同級生、アン(仮)がいた。互いを自己紹介。もともとはTitan地方からきたリコと地元のアン。寮の様子をみると、そこにはポケモンと共に生活する先輩生徒たちの姿。ポケモントレーナーに憧れているアン。入学式が終わったら、自分のパートナーとなるポケモンとの出会いがあることを確認するふたり。楽しみ。そして、アンは人気のリーグ実況動画をみている。リコは、みつからないように鞄から大切な宝箱をとりだして、ベッドの下にしまう。と、おもったらアンにみつかってしまう。寮母さんに見つからないように頼むリコ。それは、祖母から大切なお守りとしてもらった《ルシアスの宝石(コダイガメ)》のペンダント。アンにみせると、驚く。リコは、はじめて親から離れての生活に不安と共にドキドキもしている。そして、ポケモンを学ぶ為に入学した理由のひとつに憧れのポケモントレーナーがいる。かっこいい女性のトレーナーである。いつか、会いたい。ただし、それが、ひとつの目標であることは学校では恥ずかしいから内緒。と日記に書き残す。

入学式からオリエンテーションがあり、ポケモン図鑑をもらったリコたち。先輩たちに学校を案内される。そして、パートナーとなるポケモンのはいったモンスターボールが渡される。アンは、自分が大好きなポケモンであるヒノアラシと出会い、喜ぶ。今度はリコ。どんなポケモンだろう。すると、リコのポケモンボールからあらわれたのはニャオハ。それはTitan地方のポケモン。リコにとっては故郷でお馴染みのタイプのポケモンだったことに少し拍子抜け。そんな微妙な態度を感じとったのか、もとのニャオハの性格なのか、そっけないふたりの出会い。こうしてリコの学生生活がはじまった。

…ここから日記をとおしての時間経過。数週間後、友達は出来たが、どこか自分がここにいることになじめていない。昼間の授業中、夜の技練習の為まどろむ寝不足のリコ。空をみあげている癖を友達に指摘される。その癖は寮の屋上でいつもひなたぼっこをしているニャオハと同じなのだが、お互いに気づいていない。

夜になるとリコは、友達には内緒でニャオハと技の練習。でも、なかなかうまくいかない(互いに自分のために技を出そうとしているのが理由)。もどかしい。みあげた夜空には小さな月。遠くに感じる。寮母さんに見つからないように隠れて自分の部屋にもどるニャオハとリコ。寝る前には日記をつけるリコ。そして、自分の部屋にある宝箱を覗く。ペンダントを時々ながめているのが好き(学校ではつけていない)。そんな日常は、平和で、どこか退屈。

一方、レジェンド団のメンバーが、手がかりをもとにリコをさがしている。目標の学校までは、たどりつけたのだが、生徒達は沢山いるし。学生は同じようにみえる。ここ数日の行動で、学内では怪しい奴と思われたり、噂されていたり、なかなかみつからない。はやくみつけなくちゃいけないのに…。あったこともないリコを探すのは一苦労のメンバーたち。

学校でのリコとアンの生活。部活やバイト、ネット活動などにいそしむ活発な日常(※ここでポケモンたちと過ごす人々の生活を描写していく。学内にあるポケモンセンターの紹介、トレーナーたちジムリーダーたちもみかけるなど。様々な地方からきている学生もいるので、様々な地方のポケモンも登場)。リコとニャオハによるトレーナーとしての日常。ポケモンとの触れあいや人々が共に生活していることを丁寧に描く。

アンとポケモンバトルをやってみるが、技がうまくでないリコとニャオハ。どこかで互いに遠慮している様子についてアンから指摘されるが、自覚はないリコ。それでも、闘い方にハッキリでている。そんなことじゃリーグにも出られない。。リコは、友人たちとの関係でいつも周囲に気配りをしている(ただ人見知りではなく、不器用なだけで行動や言動は、良い子で元気である)。特に気づく前にそんな行動をとっている(学食のメニュー、買い物でも友人にゆずるとか、それと一緒でいいよと答えることがおおいので少し不器用にもみえる。他にも例えば、アンからニャオハのアロマの香りがすきだといわれて、アロマがでる肉球を触らせてと頼まれることがあると断り切れない。しかし、ニャオハはそんなリコの態度が気に入らないのか、姿を消す。そんなことが原因でケンカになってしまったりするニャオハとリコ)。

ただそんな周囲への気づかいは、自然と身についた習慣。自分でやりたいことを人に伝える言葉がみつからないことが多い。心の中ではおしゃべりなのに…。そんなリコを知ってか知らずか、言葉を探している時にニャオハがじっとみている時もある。だから、いつも周囲の人達が笑顔になってくれるように言葉を選んでいる。でも、どこかで何かがはじまってほしいと思っていた。そう。ときめく何かをまっている…。

そんな放課後。いつものようにきまぐれで、どこかに消えてしまうニャオハの行方をさがしているリコ(何カ所かあるお気に入りのひなたぼっこ場所を探す。いつもひなたぼっこではアロマの香りが漂うので、リコは居場所がわかる)。そんなニャオハは、いつも屋上から屋根へと危険なジャンプをしたりしている。リコは無茶なことしないでとニャオハが心配で怒る。それが原因でケンカすることも。

共にポケモントレーナーとしてポケモンリーグの出場を目指しているリコ。ただし、アンから指摘されるようなリーグで勝ちたいというのが、実は目的ではない。憧れの女性トレーナーに会いたい。それが、ひとつの目標であることは、アンたちには内緒。でも、ニャオハにだけは、ちゃんと話している。

しかし、気まぐれなニャオハと深夜に練習をしているのに、まだまだ理想的な関係をつくることは出来ていない。リコを過保護に育てている絵本作家の父。そんな父に不満を感じながらも(ちゃんと父から愛されていることも自覚しているので)いうことをきいているリコ。ただ冒険家の祖父と祖母、ポケモン研究者の母とくらべて、あくまでも家庭の人である絵本作家の父親に反発したくなるのは、自分もどこかで父と同じように臆病なところがあるからだった。そんな自分の気持ちを、ニャオハに呟くが、いつの間にか寝ているニャオハ。

〇Ｂパート

…学校で初の大型連休となる前日、アンをはじめとした同級生たちが寮からはじめて実家へと帰る中、リコは父のいる実家(母はいつも仕事で留守がち)にもどるつもりはなく、寮に残っていた。そこへ現れたのは、祖母の代理人という背広姿にビシッときめた美青年の男(変装しているが、後にライバルだったとわかる)。彼から手紙が渡され、驚くリコ。手紙には「大変なことがおこったから祖母のところまでペンダントをもってきてほしい」と書かれていた。意味がわからないリコ。しかし、代理人となのる男は、祖母が待っているからはやく準備をして今すぐ一緒にきてほしいという。さらに、くれぐれも忘れずに大切なペンダントをもってきてほしいと念押す。そんな態度を不審に思ったのか、ニャオハが反発。その様子をみてなにかを感じるリコ。ニャオハの態度を信じ、代理人に部屋で着替えて旅の準備をしてくるという噓をつき、あわてて落とした宝箱から転がり出たペンダントを思わず首からさげながら、窓からニャオハと一緒に逃げる。

夕方。窓から逃げたリコ。ニャオハのひなたぼっこコースを辿って行く。逃げだしたリコの行動が読まれていたのか、先回りしていた代理人の部下らしき２人組がリコたちを探している。優しそうな代理人とはちがって強面な部下とポケモンたち。恐くて学校の中でかくれながら逃げているリコたちだったが、見つかってしまいピンチ。リコとニャオハの技が発動。部下との初バトルとなる。ニャオハとリコの様子に油断していた部下は、すきをつかれる。そこで、ニャオハとのコンビネーションがうまれそうな予感…。ピンチの状況だったが、なんとか初めてのバトルを上手くこなす(今は太陽が出ている時間だった。深夜の練習がうまくいかなかった理由がわかるリコ)。

とはいえ、まだまだ力不足ではあるリコとニャオハは、結局追い詰められてしまう。隠れている間に日が沈んでしまい、夜に。学校の屋上までにげたがリコたちは、大ピンチ。

…何者かもわからない男たちに追いつめられたリコとニャオハ。ふたりにジリジリと迫るライバルと部下たちを前に、突然上空からリザードンにのったフリードが出現。今度は、なに！　となるリコだが、そんなフリードにニャオハは警戒していない。するとライバル、あらわれたフリードに対して正々堂々とポケモンバトルで決着をつけようという。部下たちには手出しをするなというライバル。ここでライバルの持つ強力なポケモンと、フリードのリザードンによるポケモンバトル。その攻撃によって、寮や周辺が破壊されてしまう。

すごいポケモンバトルに圧倒され、慌てるリコ。なにこれ意味わかんない！　このままでは、二人の戦いに巻き込まれ学校があぶない。学校や寮をこれ以上壊されないように、ここから逃げようとするリコ。無茶を承知で、追跡してきたライバルや部下たち、そしてフリードからもダッシュで逃げ出すリコとニャオハ。そして、屋上から隣の屋根へとジャンプ！　突然の斜め上なリコとニャオハの行動に、度肝を抜かれるライバルの部下たち、そしてフリード…。しかし、リコの飛翔の勢いは届かず…。あれ…しまった…。あえなく墜ちていくリコとニャオハ。あぶない、と思わず胸からさげたペンダントを握るリコ。そして突然輝くペンダント。その輝きにつつまれていくふたり。

次の瞬間、ただのペンダントだと思っていた宝石が、一瞬だけポケモンの「コダイガメ」の姿になるのを目撃したのは、リコとニャオハだけ。驚くリコとニャオハ。その輝きから、周囲に展開される、まるでダイヤモンドのバリア（のちの宝化への布石）。

フリードとライバルのポケモンバトルの技ですら、無効化してしまうバリアの力に驚くフリードとライバルたち。そして、闘っているどころではないと反応するリザードン。

リコをまもるため、周囲を全て巻き込むようなバリア。それが、リコのペンダントが持つ、隠された力だった。※コダイガメの防御技。

つづく。

**#2**

〇アヴァン(テレビでの初回１時間放送時はカット予定でＡパートから)

〇オープニング

〇Ａパート

前話の続き。街の夜空を覆うのは、全ての属性を無効化する、美しく、そして驚くべき力によって発生した大きなバリア。落ちていくリコとニャオハだったが…次の瞬間、大きな影がふたりを受け止めた。それはリザードン。無茶なことをするな、とリコとニャオハを咎めるフリード。その言葉はいつもニャオハにリコがいっていたものと同じだった。思わずリコとニャオハは顔を見合わせる。行動力は気に入ったと微笑むフリードは、勝負は次の機会だとライバルにつげ、リコとニャオハと共に、リザードンで飛び去っていく。学校の屋上から、どこまでも続く夜空、大きな満月の浮かぶ空へと高く舞い上がる！手を伸ばせば掴めそうな月。そして学校と学寮が、段々と小さくなっていく。

眼下の学寮では、見送ることしか出来なかったライバルと部下たち。さきほどのバリアをみて何かを考えているライバル、部下たちにリコたちの追跡を指示する。そして、自分たちのひこうタイプのポケモンをくりだす。

月夜を飛翔するフリードが操るリザードンに乗っているリコ。思わず握りしめたペンダントの輝きは、いつの間にかおさまっていた。きっきみたカメの姿は…気のせい？　とリコ。なんとかエクスプローラーズたちとのポケモンバトルをいったん退けたリサードンのフリード。そこに現れたのは、迎えの飛行船。それは、リコの母親から、リコのボディガードを頼まれたフリードたちの飛行船だった。

フリードが、リザードンでリコとニャオハをつれて飛行船にもどる。すると、嵐の予感があるからとメンバーたち。進路を変える必要があるとフリードは船長室へ。フリードの報告をうけつつ、メンバーたちが相談。天候のこともあるが、飛行船のエンジンも休ませないといけないとメカニック。エンジン部分、ポケモンたちと共同で動かしている様子。

次の瞬間、大きく揺れる船体。驚くリコたちが窓の外をみると、そこには、ひこうタイプのポケモンが…。エクスプローラーズが再びやってきた。フリードたちはポケモンバトルへの応戦準備。リコには隠れていろとフリード。しつこいヤツらだ…。追ってくるエクスプローラーズ。逃げるために全速前進のメカニック。一方、ポケモンたちを安心させているジョーイ。なにか手伝えることは…と、ニャオハと共に艦橋に現れるリコ。最大戦速で前進させるメカニックだったが、運が悪いことにエンジンの調子が悪い。このままでは、追いつかれてしまう。フリードは、嵐にむかって進路を取れ、という。あえて危険な航路を取ることで、ひこうタイプのポケモンたちの接近をかわして、追跡から逃れる作戦。危険だが、いい作戦だとメカニック。メンバーたちも嵐へと突入する覚悟。そして嵐へと飛び込む飛行船。その行動に驚くエクスプローラーズたちだったが、ここで飛行船を見失うワケにはいかない。危険を承知で追跡を指示するライバル…。

嵐の中。レジェンド団の飛行船が、接近してきたひこうタイプのポケモンにのったエクスプローラーズの強襲をうける。リコがペンダントを握る。決着をつけるとライバルも登場。その姿をみてフリードも受けて立つと決意。エクスプローラーズの部下たちが狙うのは、リコと彼女の宝石。緊張の面持ちで宝石を胸に抱くリコ、そして、ニャオハ。フリードが言う。「安心しろ。おまえもその子(ニャオハ)も、必ず守ってやる」(フリードにとって大切なのは、ペンダントではない)。

〇Ｂパート

飛行船が、落雷でゆれる。その中で、リコはニャオハと共にポケモンたちを船内の安全なところへと移動させようとする。一方、フリードたちは、追撃してきたエクスプローラーズの攻撃をなんとかかわしていた。しかし嵐を抜けないとあぶない…。

その頃、そんなメンバーたちの死角をついてライバルたちが乗船してくる。彼らは船内でリコとニャオハを探す。船内で怯えているホゲータや他のポケモンたちをニャオハとリコが、探している。と、ライバルとリコが、鉢合わせ。驚くリコ。ライバルは輝くペンダントをみて、その秘密をしっているのかとリコに問いかける。わからない。そして、フリードのことが信用できるのかと、つきつける。それもわからない。でも、…。ライバルたちのことは、信用できない。と、ライバルに告げる。そんな頑固な態度をみて、見直した様子のライバル。しかし、その時、ニャオハがライバルの部下につかまってしまう。リコにはなにも出来ない。ペンダントがほしいなら渡す。だからニャオハをかえしてというリコ。するとライバル、最初はペンダントだけが目的だったが、そのペンダントには秘密があり、しかもその秘密はリコと関係がある、だから、一緒に来てもらおうとリコを連れていこうとする。このままライバルといくしかない。…そんな様子をみていたのは、隠れていたホゲータとポケモンたち。

同甲板。フリードたちがリコの姿を発見するが、気絶から目覚めたニャオハと共に現れる。その周囲には、ライバルとエクスプローラーズの部下たち。隙をつかれてしまったのだ。このまま黙って見送るしかないのか…。リコは、フリードたちにこれ以上は迷惑をかけたくないと考えての行動だった。しかし、フリードもピカチュウもリザードンも怒髪。フリードたちは「そういうことじゃない…。」とそういうリコを守ることが出来ない自分の不甲斐なさをせめる。…と、その時、ライバルと部下たちの背後から襲い掛かる黒い影。それは、ホゲータだった。驚くライバルと部下のポケモンが、思わず攻撃。すると、ホゲータに直撃してしまう…。傷つくホゲータ。その姿をみたリコとニャオハの驚愕…。

次の瞬間、嵐の甲板。ホゲータの傍らへといこうとリコとニャオハ。とめようとする部下たちだったが、リコが、「離して！」と拒絶。ニャオハとリコのコンビが、ペンダントの輝きと共鳴した技をくりだす。それは、今まで放つことの出来なかった技が発生。

※ここで出た特別な技は、リコとニャオハがはじめて心から誰かの為に闘いたいと思った気持ちによって発生した。今まではどんな練習してもあくまで自分たちのためだったからうまくいかなかったとする。

その技の輝きが、ひろがると周囲を破壊。そしてライバルの部下たちも撃退。リコとニャオハの、技が出来たという感激。驚くフリードたち。と、ゆれる船。甲板で発生した技が、飛行船を大きく破壊してしまった。折れた旗が、飛んでいく…。

次の瞬間、吹き飛ばされるニャオハとリコ。リコがさけぶ、ニャオハ！　リコをなんとか捕まえるフリード。そして飛ばされたニャオハは、ライバルがつかまえ、甲板からひこうタイプのポケモンたちと合流。ニャオハをつれたままで脱出。なんだ、あの技の輝きは…。とライバル。しかし、今は、いったん撤退するしかない。ニャオハを手に、飛行船から飛び立っていく。

ペンダントは奪われなかった。リコも無事だった。しかしニャオハはライバルたちが連れて行ってしまった。ショックのリコ。気力を失ったリコを支えるフリード。嵐の中で…。

〇エンディング

つづく。

**#3**

〇アヴァン

リコの夢。それは、小さい頃に祖母と過ごした時のこと。そして、祖母がしていたペンダントの輝きに興味を覚えた時のこと。その時に聞いた話…。それは…ペンダントの秘密。それは、伝説に残る最強のポケモントレーナーの昔話。そのときには、わからなかった。お伽噺だと思っていた。でも…。

時間経過。目覚めたリコ。ニャオハが心配そうに寄り添っていた。しかしそれは、幻。姿はなかった。

〇オープニング

〇Ａパート

だんだんと記憶がよみがえるリコ。ニャオハは…ニャオハはどこ。するとメンバーたちは、ライバルにつれていかれてしまったと告げる。ショックを受けたリコは、ニャオハを探しに行くと宣言。しかし、それは出来ないとメンバーたち。フリードたちが、リザードンと共に探しているという。

そこへ、もどってきたフリードたち。ニャオハをみつけることは出来なかったという。しかも、ホゲータの体調も心配だとジョーイ。「みんな私…いや…ぜんぶペンダントのせいだ。」とリコ。リコはフリードに、「最初からこれがほしかったんでしょ。私はいらない」という。しかし、「そんなことをしても、なにも解決しない…」とフリード。リコもそれはわかっていた。でも、自分が選んだことで、誰かが、ポケモンが…傷ついてしまったなんて…。するとフリードは、ニャオハを「必ず取り戻そう」とリコに宣言。その言葉に救われるリコ。最初からフリードは、ペンダントの謎を知りたかっただけでリコに接触したのではなかった、と気づくリコ。でもニャオハは、いま、どこにいるのだろう…。いつもならアロマの匂いで居場所がわかるのに。すると、料理人のマードックが、「匂いのことなら得意なポケモンがいる」、と自分のイワンコを呼び出す。リコが、ニャオハの匂いのついた服をイワンコに嗅がせる。これでニャオハの居場所を探しだそう。するとジョーイが、「ホゲータの治療には船にない薬が必要。ポケモンセンターでホゲータを治療しなくては…。」と言い、ポケモンセンターのある近くのセキチクシティ(仮)の港へ向かうことに。

その頃、海中に潜水艦。それはライバルと部下たち。船内では、ニャオハの姿。しかも全然元気、それどころか、もの凄く食べる。ねる。いろいろ食べる。ねる。そして、たべてねる。といったマイペースな態度で、ライバルと部下もあきれている。ライバルは、「

飛行船はホゲータの怪我や船の修理で、どこかに停泊するはず」と、部下に捜索の指示をしていた。その報告をうけて確認。飛行船は、ポケモンセンターを目指し、ある港に停泊していることがわかった。そこへ向かえ、と指示するライバル。次こそは、必ずペンダントを手に入れる。

一度、本部に報告してほうがよいのではと部下からの進言があったが、ライバルは拒否。ライバルは、「…あの輝きは、ただのペンダントではない。本部は、自分たちになにかを隠している。あのリコにも秘密がある。本部はなにを考えているのか。それがわかるまでは、戻るつもりもない。ここから、独断行動を取る」と宣言。驚く部下たち。しかし、ライバルの想いに従う。

時間経過。セキチクシティ(仮)の港。停泊している飛行船。昨日の嵐とエクスプローラーズとの闘いで壊れた飛行船を修理しているメカニック。バタバタしている船内。そんな船内で大騒ぎをしているポケモンたち。

一方、ジョーイはポケモンセンターにホゲータを連れてきていた。無事に治療することが出来そう。安心したリコ。そしてマードックから、イワンコがニャオハの匂いを見つけた、という報告が。フリードはライバルたちが自分たちを追ってきたのだと察し、逆にヤツらを誘い出して、その隙にニャオハをとりかえそうと計画を提案する。それに自らも一緒に行ってポケモンバトルをすると決心するリコ。ジョーイたちは反対するが、フリードはリコの決意を受けとめる。嬉しいリコ。ニャオハに会いたい。きっと、ニャオハも同じ気持ちだ。そして、その気持ちにペンダントだって、きっと答えてくれる。フリードたちとなら、大丈夫。どうしてなのか、信じることが出来る。それは、きっとペンダントのおかげ。…自分では、信じられなかったけど、きっと答えてくれる。。レジェンド団のメンバーたちとリコは、ニャオハ奪還作戦を実行する。

エクスプローラーズたちは、港に停泊しているレジェンド団の飛行船に向かおうとする。しかし、それは罠。メカニックとジョーイ、マードックが、彼らを待ち伏せしていた。部下たちとバトルになるが、そこにリコもフリードもいない。

〇Ｂパート

一方、ジョーイとメカニックとマードックが、やってくるエクスプローラーズをひきつける間に、フリードとリコは、イワンコがみつけたニャオハの匂いをたどっていた。すると、セキチクシティ(仮)の港の倉庫へと続いていることがわかる。きっとその倉庫に、ニャオハもいるはず。フリードとリコは倉庫へと向かう。リコとフリードはそれぞれニャオハを探すことに…。見知らぬ場所でもニャオハの匂いなら、リコにならわかる。そしてニャオハの元へと向かうリコ。しかし、そこに待っていたのはライバルだった。「来ると思っていた」といい、ライバルはリコを捕まえることに成功する。そしてそのままニャオハのいるところへ連れていく。が、そこにニャオハの姿はなかった。驚くライバル。いつの間にか逃げ出していた。

とりあえずリコを部屋にとじこめるライバル。ライバルには、もうひとつ目的があった。そしてフリードへと呼び掛ける。現れたフリードと対峙するライバル。決着をつけようと、2人のポケモンバトルが始まる。

一方、飛行船でのバトル。あくまでも部下たちは、フリードたちを分散することが目的だった。ポケモンバトルはそこそこに部下たちは、飛行船から退避していく。部下たちは、このタイミングで特別なポケモンが辿ることができる発信機を飛行船に仕掛けていた。

その頃、ニャオハは、隙をついて倉庫から逃げ出していた。リコのところへと帰ろうとしていたのだ。互いの気持ちは通じ合っているが、再びすれちがってしまう二人。か、のようにみえた。しかし、ニャオハは何かを感じて、倉庫へと引き返す。倉庫へと戻ったニャオハは、逆に捕まっていたリコを見つける。互いの心が、あらためて通じ合うことで技をつかい倉庫から脱出する。無事に再会することができたニャオハとリコ。嬉しいふたり。

早くここから逃げなくては…。その横では、フリードとライバルが闘っていた。今のうちなら逃げられる。そして逃げるニャオハとリコ。しかし飛行船から退避してきた部下たちと鉢合わせしてしまう。学校でポケモンバトルをした時と同じ状況に。しかし前とは違う。と、バトルへ。今度は、ニャオハとのコンビネーションがきまる。部下たちとのポケモンバトルに勝って、リコとニャオハは、脱出。すると、そこにジョーイたちが迎えに来てくれた。飛行船の修理も、ホゲータの治療も無事に終わった。

一方、フリードとライバルのバトル。しかしここでフリードがポケモンバトルに負けてしまう。が…ライバルは気づく。フリードがわざと自分に負け、時間稼ぎをしていたことに。そのとき、現れたのはレジェンド団の飛行船。一杯くわされたライバル。

最初からライバルをひきつけるつもりだったわけではないフリード。しかし、リコとニャオハなら、きっと自分たちだけで逃げ切れると信じていたのだ。そこであえてライバルとポケモンバトルをして時間稼ぎをしていたのだ。飛行船に乗り、飛び去っていくフリード。そんなフリードたちに翻弄されたことにライバルは、負けを素直に認める。

飛行船。ホゲータとの再会をよろこぶニャオハ。そして飛行船は、こんどこそ、リコたちを送るために出発しようとするが、今度はリコが決断する。

このまま実家に帰ったらエクスプローラーズが追ってきてしまい危険。ペンダントの謎がわかるまで、このまま自分たちのことを守ってほしいとフリードに依頼をするリコ。するとフリードだけでなく、その覚悟にメンバーたちも、リコとニャオハを受け入れる。そして、リコとニャオハは、正式に飛行船とペンダントをめぐる謎を知る為の旅にでることになった。。

〇エンディング

時間経過。翌日。カントーの沖合、とある島の1つ。嵐が去った後の美しい空と静かな海。砂浜に続く家を出る少年、レイ。元気いっぱいで曾祖父である島の長老にあいさつ。そして、浜辺を歩く。拾った石を軽く海へと投げる。凄腕トレーナーとしての将来を予感させるような素晴らしいコントロールで水面を水切りしてゆく。いつも嵐のあとには、何か面白いものが漂着しているので、探している。砂浜で発見する何かの布きれ(実はレジェンド団の旗の切れ端)。気になってポケットにしまう。

つづく。

**#4**

〇アヴァン

カントー。沖合のとある島の1つ。レジェンド団の飛行船が、入り江に隠れて停泊している。のんきに昼寝をしている老人とクワッス。そして、ニャオハ。そんな船内で大騒ぎをしているポケモンたち。停泊している理由。ずっと飛行してきたので休みもあるが、動力もオーバーヒート中。ボンコツなエンジンの調整をしているメカニック。

ここに必要なものがある。フリードは数年前に博士として、ここへ研究にきた時に出会った老人から、英雄ルシアスの話をきいたことがあった。あらためて老人からその話をききたいという。他に船が飛行する為に必要なポケモンを探してきてほしいとメカニック。フリードは、飛行船のエンジン出力が回復する為に力を貸してくれるポケモン(例えば鉱物系や無生物系のポケモンなど一考)について島のポケモン使い、または島にいるなら生息場所をきくつもりで出かける。ついていこうとしたが、リコは留守番。フリードが、リザードンで向かうのを見送る。と、そんなみんなが気づいていないところで、飛行船から出ていく影。それは、ホゲータである。

〇オープニング

〇Ａパート

前話のつづき。そんな島の反対側。嵐が去った後の美しい空と静かな海。砂浜に続く家を出るレイ。元気いっぱいで長老にあいさつ。そして、浜辺を歩く。拾った石を軽く海へと投げる。すると、凄腕トレーナーとしての将来を予感させるような素晴らしいコントロールで水面を水切りしてゆく。レイは、いつも嵐のあとには、何か面白いものが漂着しているので、探している。砂浜で発見する何かの布きれ（レジェンド団の旗）。気になってポケットにしまう。

一方、飛行船。リコはホゲータがいなくなったことに気づく。残っているポケモンたちも心配。どこに行ったのかのかとポケモンたちを探すリコとメンバーたち。実は、今朝、ダミ声のホゲータにうるさいとジョーイが注意したら、ホゲータがすねていたらしいと情報をつかむ。フリードたちに報告したいがでかけたまま。そこで、Titan地方のポケモンにはメンバーたちよりも少し詳しいリコが、探しに行くことに。ニャオハと一緒に出かける。

一方、島の反対側。海岸からもどったレイに授業開始のメッセージが端末に届く。小さな島では、オンラインをつかった授業が当たり前。なので、映像をオフにしていたら、どこにいても出席扱いなので、いつも島を探検しながらレイはオンライン授業に出ていた。オンラインの同級生たちとボイス・チャットで合流。彼らは、それぞれモンスターボールで手に入れた最初のポケモンについて話していた。野生で捕まえた者、親からプレゼントされた者、さまざまだが、レイはその様を羨ましそうに聞いていた。そんなレイはゲット未経験。島にはフレンドリィショップがないから仕方ないよなとなぐさめる同級生。でも、ポケモンたちと自然に共に暮らしているので、レイだけでなく島民たちもモンスターボールを使っていない。レイは、オンラインでいろいろな情報も知っているので、ポケモンの知識は詳しいし、トレーナーのことは知っている。オンラインの友だちは、それぞれ目標を語る。「俺はジムを制覇したい」「私はヌシを倒しに行く」「レイは？」と友人に問われると「まだわからない」とレイ。でも、夢がある。いつか最強のポケモンと過酷で危険な冒険の旅にでる…。と語るが、そんなの夢物語だとオンラインの友人たちから笑われる。けど…、レイは信じていた。

その頃、森の中でリコとニャオハ。ホゲータを探している。食べ残しの発見に追跡。とそこで出会ったのは、ホゲータではなく怒っているポケモン。見つかったリコとニャオハ(ホゲータが食べ物を横取りしたのだが、ニャオハたちの仕業と誤解)。逃げる。が、おいかけてくる怒髪なポケモン。

一方、レイは今日も浜辺でみつけた宝物を自分だけの秘密基地へしまうために山へとむかう。「いにしえのモンスターボール」を投げると凄いコントロールで、木の実を落とす。そして、回転をつけて木の枝から跳ね返るとレイの手にもどる凄い技。そして、森の秘密基地へ。すると、ガラガラ声の歌が聞こえる。驚きつつ秘密基地へ。みると大切に隠していたお菓子やオモチャが、あらされていた。怒るレイ。誰の仕業だ。と、そこには足跡。と、そこで出会うのは、みたことのないポケモン(ホゲータ)お菓子を食べて上機嫌で歌っていた。レイにみつかったと、あわてて逃げるホゲータ。おいかけるレイ。逃げた先。島の反対側にある絶壁に出る。よそ見をしていて、あやうく落ちそうになるホゲータ。あぶない。と、ピンチのホゲータを自分の危険も気にせずに助けたレイ。はじめてレイが、ホゲータを抱きしめる。と、その視線の先、みたことのないレジェンド団の船が隠れて停泊。その船体には、拾った旗の切れ端と同じマークがみえた。

〇Ｂパート

エクスプローラーズの本部。呼び出しをうけているライバル。心配している執事との関係も描きつつ。他のメンバーたちから質問される。しかし、何も答えないライバル。隊員がモニターを操作。すると、画面に現れたのはエクスプローラーズのボスであるエルドラ。ペンダントが、飛行船にあることをライバルから聞き出す。よい報告をまっていると画面からきえるエルドラ。そこまでこだわるには、どんな謎が。ますますライバルの心に疑問がわきあがる。そして、本部をあとにしたライバルは、部下からの連絡をうける。発信機の追跡で、ある島に停泊していることがわかる。潜水艦の準備をさせる。

一方、フリードは、浜辺の村で長老に相談していた。そして、伝説に残る最強ポケモントレーナー・ルシアスの話を教えてほしいという。すると、長老が「リコにあいたい」という。ただ飛行船の修理に力を貸してくれるポケモンについて聞くと、「この島にポケモントレーナーはいないので、手持ちポケモンとしてそのようなポケモンを持っている人がいない」と長老が言う。しかし、ポケモンと島民は助け合って共存していると聞き、感心するフリード。ここで、長老はこの島ではモンスターボールが必要ではないことの説明をする。フリードが困ったと考えていると、そこにとびこんできた島のひと。怒っているポケモンが出たという。そして、誰か(リコ)が追いかけられているとの報告。

その頃、レイとホゲータ。レイは、この島ではみたことのないホゲータがあの船からきたのでは、考えてわくわくする。レイとホゲータの交流。レイは、ダミ声だけど良い歌だといってくれた。するとうれしい気分のホゲータが歌う。すると、元気に一緒にうたうレイ。そのリズムとハーモニーが、2人の絆の発芽になる。どこからきたのかわからないホゲータにレイは、島の外に出たことがないと話す。みたことのない場所にいきたいと。そして、一番の宝物である「いにしえのモンスターボール」をみせる。みんなは信じてくれないけど…。と、伝説に残る最強トレーナー・ルシアスの話をする。話を聞いているホゲータ(実はホゲータもフリードのリザードンに憧れている。言葉では伝えられないが、レイの気持ちがわかる)。レイは冒険の旅での妄想を語る。例えば、自分の船には…と今朝ひろった宝物の旗を掲げたいなと、みせる。ホゲータは、その旗をみて反応。するとレイは、喜んでくれたと勘違いで妄想をひろげる。そのときは、ホゲータもついてきてくれたらいいなと約束。次の瞬間、付近で怒ったポケモンの鳴き声が響く。その声が、どんなポケモンなのかがすぐに理解するレイ。誰か(リコ)が追いかけられている。声のするところへ向かうレイとつづくホゲータ。その時、レイの「いにしえのモンスターボール」が輝く(リコのペンダントと反応している)。

ポケモンに襲われてにげているリコとニャオハ。と、リコのペンダントが不思議な輝きを放つ(「いにしえのモンスターボール」と反応している)。あらわれたホゲータに気づく。すると、見知らぬ少年のレイとともに、ホゲータはリコたちをなんとか助けようとする。そのコンビネーションをみて驚くリコ。レイは、ポケモンには当たらないようにしながら石を四方八方に投げることで、怒ったポケモンたちを翻弄。なんとか助ける。

時間経過。リコとレイの対話。島のひとじゃないリコに興味津々のレイ。リコは、助けてくれたレイに感謝。そして、リコは何故か輝いたペンダントと「いにしえのモンスターボール」に興味。レイが、手にしているのは石ころの様だが「いにしえのモンスターボール」と自分で名づけた宝物。いつか伝説のポケモンをゲットする為の大事な「いにしえのモンスターボール」である。そして、「いにしえのモンスターボール」は、自分がめざす憧れの「全ての伝説のポケモンにであった男（ルシアス）」のものなんだと、レイの語るルシアスという言葉に反応するリコ。どんなポケモンがいるのとリコ。するとレイ。実は爺さんが、百年前に拾ったもので、中身は空っぽだし、壊れているのか開きもしないけど、という。少しガッカリのリコ。ボゲータとリコが、あの飛行船に乗っていたことをきいて、レイは感激。と、そんな場合じゃない。怒ってリコを追いかけていたポケモンと同じポケモンが今度は群れで登場。多勢に無勢となってしまい、レイとリコとニャオハが囲まれて身動きが出来なくなる。いつの間にか、ホゲータはいない。

思わず逃げてしまったホゲータ。このまま逃げてしまいたいのだが、葛藤の脳裏。絶壁で助けてくれ、歌をほめてくれたレイ。そして、探しにきてくれたリコ。逃げないと決断するホゲータ。…怒ったポケモンたちの群に突入。怒ったポケモンがホゲータを捕まえようとするが混乱。その隙をみてレイとリコが協力して脱出成功か…。しかし、今度はホゲータも一緒に群に囲まれてしまう。

そこに現れたのは、フリード。そして、怒ったポケモンの群にフリードがくりだすリザードン技。その勇姿。そして、華麗なバトルで怒ったポケモンの群を退ける。そんな姿をみてレイは、自分が空想していた冒険者の姿をみたような気持ち。はじめてトレーナーとポケモンのバトルを生でみたレイの感動。リコとレイが助けられる。そして、フリードは、レイが助けてくれたことにお礼をいう。照れるレイ。そして、フリードとリコ、ニャオハとホゲータと去っていく。ポツンと残ったレイ。そして、飛行船にもどるリコたち。

夜。飛行船。ねむっていたリコを起こすニャオハ。歌が聞こえてくる。ホゲータが歌う少し寂しそうなダミ声の歌。それはレイがほめてくれた歌。そんなホゲータに話しかけるリコ。誰にもなつかなかったし、なかなか歌わなかったホゲータの歌をきくリコとニャオハ。

〇エンディング

つづく。

**#5**

〇アヴァン

夜。眠れないレイ。妄想していた冒険の始まり。何か起こる予感。このまま朝になって、いつも通りの生活が始まる。でも、ホゲータに、もう一度、あいたい！　あの船のところにいこう。家を抜け出したレイ。岸壁に停泊しているレジェンド団の船。近くにいくと、なぜか「いにしえのモンスターボール」がみたことのない光を放つ。するとレイは「いにしえのモンスターボール」が、導いてくれたと目を輝かせる。船へと密航を試みるレイ。どうやらボールは船の方に反応している。こっそり潜入、反応を辿っていく。だが、すぐピカチュウにみつかってしまう。レイとピカチュウで一悶着。ということがおこっていたのは、あとから知った。

〇オープニング

〇Ａパート

前話の続き。飛行船。ねむっていたリコ。歌が聞こえてくる…。それはホゲータが歌う少し寂しそうなダミ声の歌。それはレイがほめてくれた歌。そんなホゲータに話しかけるリコ。ホゲータもレイのことを思い出しているのかな。するとリコのペンダントに反応。驚くリコ。そこへピカチュウの電撃を放った音が。何がおこった？

一方、勝手に侵入したレイに師匠ピカチュウが電撃を浴びせ、しびれるレイ。なにごとだとメンバーたちやポケモンたちも現れる。目覚めたレイは、密航を謝り、冒険への憧れを熱く語るが迷惑そうなメンバーたち。追い返される……とおもった時にあらわれたリコ。彼女の抱えたペンダントが、輝きの反応。何かと共鳴していた。これは一体？　と、そこに現れたフリード。ペンダントと「いにしえのモンスターボール」の反応をみて興味を持つ(レイは気づいていない)するとレイ、伝説のポケモンを探す冒険の旅に出たい、と「いにしえのモンスターボール」を手にして宣言。するとあらわれたホゲータ、まるでレイをかばうようにフリードとの間に割ってはいる。レイは、ホゲータとの再会に喜ぶ。そんなホゲータの態度に驚くメンバーたちとフリード。あの偏屈なホゲータが、心をひらいたようにみえる。だが、メンバーたちはだめだという。そして、フリードも、朝になったら長老のところに一緒に行くぞ、と言われる。ダメか…。長老に叱られる…と、がっくりするレイ。とホゲータ。

その夜、レイとリコの対話。レイの夢は、「全ての伝説のポケモンに出会った男」の持っていたという「いにしえのモンスターボール」と冒険にでること。誰も信じてくれなくても、この「いにしえのモンスターボール」が導いてくれると信じたいレイ。するとペンダントを大事そうに抱いたリコ。いろいろな場所に伝わるお伽噺は噓だけじゃないと信じてくれる。レイが、ホゲータにもう一度、あの歌を聴かせてとたのむ。月夜の甲板でホゲータとレイが歌う…。

〇Ｂパート

翌朝。朝陽がのぼる。船のメンバーたちが見送る中、フリードとリコとニャオハと一緒にレイ。いつのまにかホゲータが、またいないことに気づくメンバー。だが、また倉庫で食べ物でもつまみ食いしているのかなと気にしていない。

浜辺。長老の家。怒られる覚悟をしていたレイ。長老は、フリードの必要なポケモンをよんでくれていた。このポケモンの力があれば、飛行船が飛ぶことが出来ると感謝するフリード。長老は、リコとペンダントをみて感心する。そして、リコにかつて島につたわる百年前から伝わるルシアスの話を語る。しかし、あくまで「いにしえのモンスターボール」も偶然ひろったもので、老人も直接のいきさつなどの真実は知らない。そのペンダントのことを一緒にきくリコとフリード。そして、興奮しているレイ。自分が妄想していた話とリコとペンダントに繫がることに感動しているレイ。思わず、伝説のポケモンを探す冒険の旅に出たい、と「いにしえのモンスターボール」を手にして宣言しようとするレイ。そこへ、実はレイが心配でこそこそとついてきていたホゲータが登場。エクスプローラーズを発見。それを知らせるために長老の家へ飛び込んできたのだ。ホゲータの姿に驚くフリード。喜ぶレイ。そんなレイとホゲータの姿をみて目を細める長老。ホゲータは、何かを伝えようとしている。何だ？

その頃、ライバルがポケモンに乗って捜索をしている。飛行船につけた発信機を辿ってきたのだ。みつかってしまうのは、時間の問題…。まだ飛行船はエンジンの調整が終わっていないので、飛び立てない。

長老の家。家をでたフリード。船があぶない。するとフリードは、ホゲータとレイ、リコとニャオハに危険だから、ここで隠れていろという。そして、リザードンにのって、向かうフリード。

一方、飛行船。エクスプローラーズに発見されていた。彼らのポケモンたちに追われていると、そこにあらわれたのは、リザードンと共に飛来したフリード。エクスプローラーズのポケモンたちとのバトル。その中で、ライバルとのポケモンバトル。互いに正々堂々と今度こそ、と闘う。

その頃、長老の家。レイは、ここでかくれているだけなのは、いやだ。飛行船が飛ぶ為に力を貸してくれるポケモンが届けると決意。おどろくリコとニャオハ。届けないと飛行船がとべないんだろとレイ。あぶないと長老がとめるのをきかずに船へとむかおうと出ていく。と、そこにはホゲータ。気づくレイ。フリードたちを助ける為にむかうことをきいていた。強がっているレイだが、こわがっていることと気づき。ふるいたつホゲータ。そして、リコとニャオハも互いにうなずくと一緒に届けようと。長老からあずかったポケモンを届けるためにがむしゃらに走るレイ、リコ、ニャオハ、ホゲータ。

飛行船が狙われている。と、闘いの中であらわれたレイとホゲータ。しかし、エクスプローラーズのポケモンに襲われてしまいピンチに。するとレイが、ホゲータをはげますと、火事場の馬鹿力的なコンビネーションで、なんとトレーナーでもないレイとホゲータが、一緒にうたうこと、リズムとハーモニーの絆などで、今まで出したことのない技を放つ…！

レジェンド団とエクスプローラーズのポケモンバトルの中であらわれたレイとホゲータが放つ新たな技。その技にやられるエクスプローラーズのポケモン。その姿に驚くリコとニャオハ。レイとホゲータは、自分たちでも驚く。いままでホゲータが覚えていなかった技が、レイと一緒に歌ったことで放つことが出来た。そして、レイは、長老からあずかったポケモンをメカニックに託す。飛行船のエンジンが始動を開始。なんとか、飛行することが出来た。

フリードはライバルとの再戦に挑む。するとピカチュウが、船がピンチだと指し示す。しまった。今度は、フリードをおびき出す作戦だった。

部下たちの目的は、リコとペンダント。その攻撃の中で、レイとホゲータ、リコとニャオハは行動を共にする。ポケモンたちとにげまわる船内。と、その時、まだ本調子ではないエンジン部分に、ポケモンバトルの中でエクスプローラーズのポケモンが放った攻撃が意図せず跳ね返って命中。大きく破損したレジェンド団の船は、黒煙を放ちながら、海面へと不時着する…。フリードが、不時着した飛行船へと向かう。再び修理を急ぐメカニック。手伝うポケモンたちとメンバー。パニックだが、再始動することを目指す。リコとニャオハは、甲板にいた。そんなリコたちにむけて、エクスプローラーズがポケモンバトルで道を塞ごうとする。。リコとニャオハを直撃か…。するとレイとホゲータがあぶないと思わずリコたちのもとへと走り出す。が、間に合わずに大爆発。絶対絶命。

〇エンディング

つづく。

**#6**

〇アヴァン

前話のつづき。リコとニャオハは、甲板にいた。そんなリコたちの行く手を阻もうとする、エクスプローラーズのポケモン。リコとニャオハを直撃か…。すると、レイとホゲータがあぶないと思わずリコたちのもとへと走り出す。が、間に合わずに大爆発。絶対絶命。

〇Ａパート

レジェンド団の飛行船が墜落している。リコたちの行く手を阻もうとして出したわざが当たってしまいエンジンが爆発。目撃したフリードの驚愕…。

ここでもういちど、リコのペンダントが「コダイガメ」となり、バリアを出現させた。と共に別の反応が…。それは、レイの持っていた「いにしえのモンスターボール」の反応だった。次の瞬間、レイの「いにしえのモンスターボール」から何かが、出現する。驚くレイとリコ。そして、出現したのは、…黒いレックウザだった。

次の瞬間、煙の向こうに輝きが発生。驚くフリードたち。またリコのペンダントかと思ったが、違う輝きである。そこには、レイが握っていた「いにしえのモンスターボール」から出現した黒いレックウザが出現した。その勇姿は観たことのない属性と輝きをみにまとっている。レイたちを襲ったエクスプローラーズの攻撃も黒いレックウザの力で、跳ね返していた(ここの出現にリコのコダイガメが、どう作用しているのかを一考。設定としての反応なども含めて、ここでもう一度、コダイガメの姿となるか。その場合、フリードとライバルたちは目撃するべきかなども含む)。驚くフリードとライバル。レイ自身も驚く。このモンスターボール、空っぽじゃなかった？！

浜辺では、不時着したレジェンド団の船を心配してみていた島の人たちと長老。すると、そこに出現した特別な輝きを放つ黒いレックウザの姿をみて、驚く。すると長老が、あれは「ルシアスのポケモン」か。百年前の言い伝えは、やはり真実だった…、とつぶやく。

〇Ｂパート

そのレックウザ」の姿をみたエクスプローラーズ、ライバルの驚き。そんなレックウザの出現によって、思案をめぐらせたライバルは部下たちに撤退を指示。レイがもっていた「いにしえのモンスターボール」から出現した黒いレックウザが、結果的にエクスプローラーズを退けさせてレジェンド団たちを救った。

レイは、黒いレックウザを「いにしえのモンスターボール」へともどそうとする。黒いレックウザは、レイにまったく反応せずどこかへと飛び去ってしまった。レイに残ったのは、中身が空になった「いにしえのモンスターボール」だけ…。呆然とするレイ。

悠々と飛び去ってゆくレックウザを見送るレジェンド団のメンバーたち。そして、レイとホゲータの活躍に感謝するリコ、ニャオハ。フリードとメンバーたち。そして、飛行船につけられていた発信機の壊れた残骸を発見したクワッスと老人。これが、追撃を受けた原因だったことがわかる。

時間経過。再び長老の家。フリードとレイが、飛行船の修理の為に借りたポケモンを返しに来た。するとフリードは、長老にレイを課外研修の名目で一緒につれていく許可が欲しいと頼む。ビックリしたレイ。レイが、島生活で外の世界をみてみたいと夢みていたことをしっていた長老。そして、「いにしえのモンスターボール」が目覚めたことをみた長老。旅立つ許可を出す。かつて同じように旅立ったのが、レイの父親だったと語る長老。そして、もどらなかった。すると、中身の空になった「いにしえのモンスターボール」を持つレイは、自分に違う。必ずレックウザと一緒にここへもどってきますと告げる。

と、そんなレイを外で待っていたホゲータ。その様子をみてフリードが、レイに空のモンスターボールを渡す。一緒にいく約束をしていたホゲータ。レイが、すごいコントロールでなげたモンスターボールにはいる。初ゲットとなる。新ポケと共にポケモントレーナーとしての第一歩を歩むレイ。そんなレイをむかえるリコとニャオハ。そして、メンバーたち。

時間経過。エクスプローラーズの本部。ライバルからの報告をうけたエクスプローラーズ幹部たち。発信機のことを隠して単独行動したことを叱責。だが、そこに黒いレックウザの出現の報告をきくと驚くエルドラ。彼らの行方を追えという。発信機は既に壊れている。と追跡の指令をうけたのはエクスプローラーズ幹部の１人。ライバルは任務から外される。悔しいが、調べたいことがあるので好都合だと部下に話す(ここで「いにしえのモンスターボール」と「ペンダント」のバリアと「宝化」の関連性を気づいていたライバル。同じことに気づいているのはフリード)。

時間経過。夕方。修理を終えて出航準備の完了したレジェンド団の飛行船。あらわれたレイをむかえてくれるリコとレジェンド団たち。ポケットにいれっぱなしだった旗をフリードにかえすレイ。するとフリードは、レイに旗をつけてくれとたのむ。再び、たなびく旗。そして、旅立ちの時間。

そこに現れた島の人々との別れ。がんばれよ、と見送ってくれる。そんな島民たちと長老の姿が小さくなっていく…。そして、レイの冒険がはじまる。「いにしえのモンスターボール」が導いてくれたと目を輝かせる。

〇エンディング

つづく。